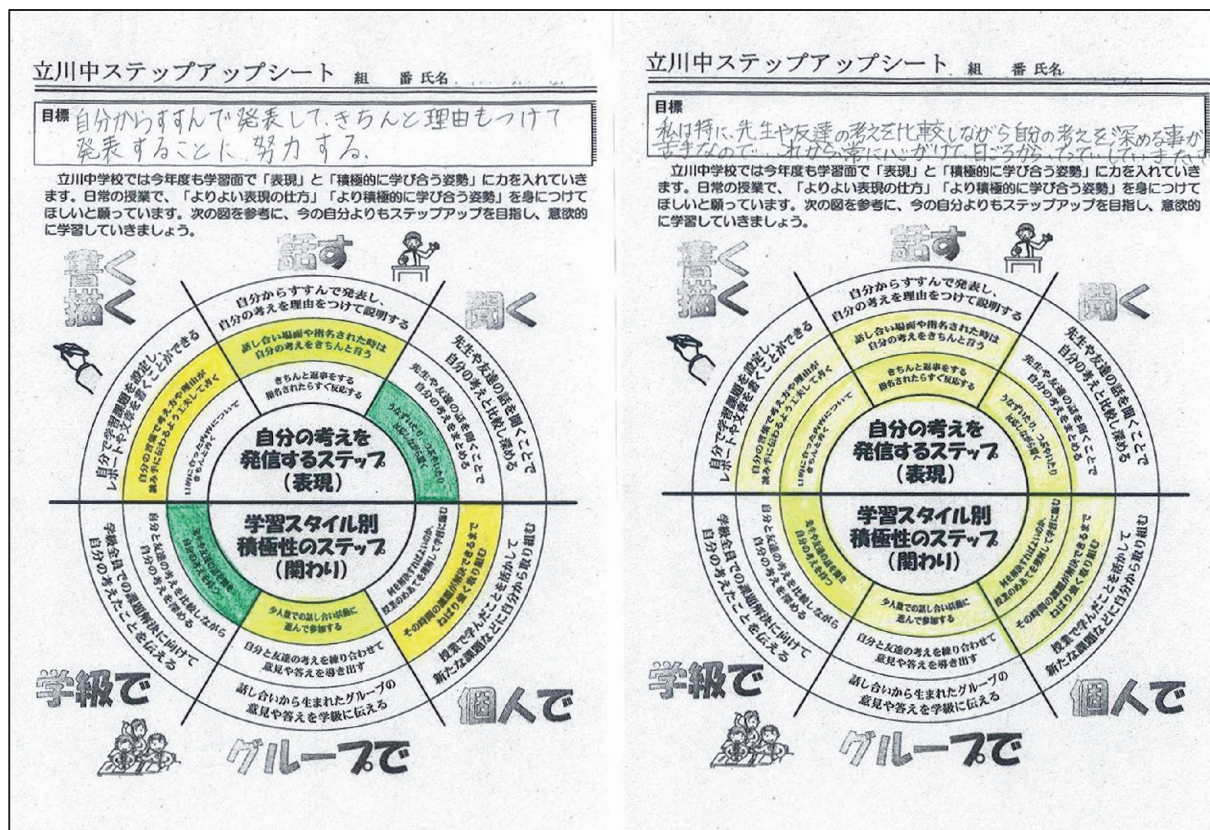


■ 「立川スタンダード」にもとづいた実践例

○ 「立川中ステップアップシート」の小学校での活用

中学校で行われている学習面における重点である「表現」と「積極的に学び合う姿勢」は、小学校においても必要な力であり、教員の児童生徒への願いが小中学校ともに合致している。

そこで、小学6年生でも中学校で活用しているステップアップシート（下図）に取り組んで、中学校での学習につなげる意識をもたせることができる。



○ 小中学校互いの必要感に応じた授業づくり

小学生が感じている中学校における学習の不安を取り除くとともに、中学校において伸ばしたい生徒の力を見越した小学校での指導の在り方を考えるために、小中学校互いが必要としている視点を授業の中に取り入れて指導している。

小学校から

立川小学校文化祭の5年生の音楽発表に向けての合唱練習に、中学校の音楽教員が指導者としてかかわっている。

はじめに、小学生が中学校の音楽室を訪ねて発声の基本等の指導を受けた。（写真1）

その1週間後に、中学校の教員が小学校の体育館に向いて、前回指導したことの確認と本番を見据えて、合唱の完成度

写真1





写真 2

を高める指導に指揮をとりながらかかわっている。(写真2)

こうした指導によって、子どもたちの合唱がよりよいものになるとともに、中学校の音楽教員への親近感が湧くことにつながり、中学校の入学式での歌声にその成果が表れている。

中学校から

数学においては「分数の計算」をより正確にできたり、英語の表記に関しては「ヘボン式のローマ字」を習得していたりすることは、生徒が円滑に中学校の学習を進める上では大切なことである。そうした中学校教員の思いを受け、小学校の教員は、卒業していった子どもたちの具体的なつまづきを理解するとともに、日々の授業の振り返りを行いながら、小学生への指導を改善している。

ここに
注目！

■ 取組を行って

○ 子どもの姿から

- ・ 中学校の生徒の学びへの意識が高く、学習を楽しんでいる姿が見られる。
- ・ 学力テスト等の結果から、子どもたちの学力の伸びが実感できる。

○ 教職員の姿から

- ・ 小中学校が隣接する立地条件の良さに加えて、教職員が顔の見える交流によって心理的な距離も縮めることで、児童生徒の姿で教育活動を語れるようになり、お互いの良さを理解し合える。
- ・ 小中連携の目的を、「小中学校の間にあるギャップの解消ではあるものの、すべてを除くのではなく残してもよいギャップがあるべきで、解消すべきは悪いギャップである」と認識している。小中学校の教職員が様々なギャップの質を見抜いて、子どもへの指導に取り組むことができている。

■ まとめ

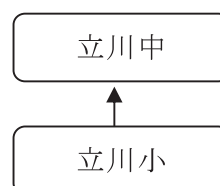
取材中、不登校が次第に減少していることをお聞きした。学習指導面での小中連携の取組が、子どもの変容を促し始め、他の教育課題の改善にまで波及することに改めて気付かされた。

このような成果を上げるには、継続した小中連携の取組が必要である。そのために、「教育課程に影響するほど取り組み過ぎない」とことと「日々の実践に沿ったものを小中連携に生かしていく」ことが大切な視点になると感じた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
庄内町立立川中学校	1 7 6 名（ 8 学級）
庄内町立立川小学校	2 3 5 名（1 1 学級）

<単一単連携>



新庄市立明倫中学校区

「小中9年間を見据えたカリキュラムの創造」

～総合的な学習の時間における9年間を見据えたカリキュラムと

ふるさと貢献型奉仕活動～

■ はじめに

新庄市立明倫中学校には、隣接する新庄市立沼田小学校、約2km離れたところに位置する新庄市立北辰小学校の2校から進学してくる。平成23年度には、小中一貫教育シンポジウムの発表区校として、これまでの取組を発表し、現在も継続発展させている。こうした取組を推進していくための組織として、明倫中学校区小中連絡協議会を開催し、平成24年度は次のことをねらいに取り組んでいる。

9年間を見据えた小中一貫教育を念頭に、明倫学区の全教職員が相互の理解と交流を進め、子どもたちの課題解決に向けて各教育領域における一貫指導の在り方についての研修・研究・実践を深めることで基本目標の達成をめざす。

また、研究部会として、「校内研究に関する部会」「総合的な学習・キャリア教育に関する部会」「心の育みに関する部会」「様々な課題を抱えた児童生徒への支援に関する部会」「家庭との連携に関する部会」「学校事務の効率化に関する部会」の6部会を設定し、小中一貫教育の在り方を追究している。

■ 明倫学区「総合学習マスタープラン」(次頁を参照)

<以下、明倫学区「総合マスタープラン」より抜粋>

○ めざす子どもの姿

将来に夢を持って、意欲的に学習、生活する生徒の育成

○ 小中連携・一貫をめざしたときに…

- ・ 小学校におけるキャリア教育、情報リテラシーの在り方（計画と指導）
具体的には、望ましい勤労観と職業観の形成と将来設計能力の育成
- ・ 小学校中学年におけるまちづくり学習の高学年及び中学校での活かし方
- ・ 中学校における環境教育の活かし方
- ・ 小中共通の評価の観点と評価規準、そして評価実践

○ 「地域貢献型プロジェクト研究」の概要

小学校時代の環境教育やふるさと学習、農業体験での学習成果を土台に、中学2年生での地域貢献型奉仕活動の視点を発展させ、地域の各領域における諸課題を自ら発見し、その解決方法を探究、研究させることにより、中学生であっても、地域を変えられる、地域を活性化させられる、そんな気構えをもたせたい。（後略）

ここに注目！

総合的な学習の時間において、めざす子どもの姿を共有し、9年間の子どもの育ちを見通した取組を行っています。

小学校における取組を生かして、中学校ではそれをどのように活用していくのかを考え、プランを作成しています。さらに、キャリア教育やふるさと学習などの視点から、9年間をつなぐ活動を創造しようとしています。

将来に夢を持って、意欲的に学習、生活する生徒の育成

– 37 –